

I. 平成24年度フォローアップ結果のポイント

○計画期間；平成24年4月～平成29年3月（5年）

1. 概況

本市は、平成26年度末に予定されている北陸新幹線開業を控え、交流・定住人口の拡大や魅力あるまちづくりなど、開業後を見据えた取り組みを具体的に推進しているところである。

第2期富山市中心市街地活性化基本計画は平成24年3月に認定を受け、計画認定初年度である平成24年度は、北陸新幹線の開業に併せて、鉄道（新幹線・在来線）やバス・タクシーの利用者の乗り換えの利便性の向上のため、駅南口交通広場から新幹線高架下まで路面電車を延伸する事業である「富山駅路面電車南北接続事業」において、平成25年2月に国土交通省への「軌道運送高度化実施計画」の認定申請を行ったところであり、開業に向けて事業が順調に進捗している。

また、市内電車環状線の停留所間の間隔が比較的大きいグランドプラザ前停留所と荒町停留所との間に新停留所を設置することにより、利用者の利便性を図る事業である「市内電車西町付近新停留所設置事業」の工事に着手し、平成25年5月の完成を予定しているところである。

これらの事業が完成することにより、中心市街地へアクセスしやすくなるなど路面電車の利便性が向上することで、数値目標である「路面電車市内線一日平均乗車人数」の増に寄与するものと見込んでいる。

さらに、中心市街地において新たな賑わい拠点となる再開発事業が複数進捗している。公益施設（ガラス美術館、図書館本館、業務施設等）を複合的に整備する「西町南地区第一種市街地再開発事業」については、平成24年12月から既存建物の解体に着手し、平成27年3月の完成に向けて平成25年5月に本格着工する予定で準備を進めているところである。また、商業施設、映画館、ホテル及び駐車場からなる複合施設を整備する「総曲輪西地区第一種市街地再開発事業」については、平成27年9月の完成に向けて準備を進めているところであり、平成25年9月から既存建物の解体に着手する予定である。

この新たな賑わい拠点の創出により、第1期計画で整備した賑わい拠点である「グランドプラザ」、「総曲輪フェリオ」周辺との相乗効果が生まれ、「路面電車市内線一日平均乗車人数」、「中心商業地区の歩行者通行量」の増に寄与するものと見込んでいる。

また、第1期計画に位置づけていた「中央通りf地区第一種市街地再開発事業」による共同住宅の完成（平成24年4月）、「西町東南地区第一種市街地再開発事業」による共同住宅が完成（平成24年10月）は、中心市街地の居住人口の社会増加に寄与している。

その他、計画区域内の民間の分譲マンションの販売が好調であり、今後も新たな建設が予定されていることや、富山駅周辺や中心商店街において飲食店等の新規出店が増えたこと、また、地元の金融機関が中心市街地に美術館を開館するなど民間の投資意欲も活発となってきていることなど、中心市街地活性化に向け、好ましい状況が見られる。

## 2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見し	今回の見通し
公共交通や自転車・徒歩の利便性の向上	路面電車市内線一日平均乗車人数	11,022人/日 (H22)	13,000人/日 (H28)	11,564人/日 (H24)	—	①
富山らしさの発信と人の交流による賑わいの創出	中心商業地区の歩行者通行量(日曜日)	27,407人 (H23)	32,000人 (H28)	24,232人 (H24)	—	①
質の高ライフスタイルの実現	中心市街地の居住人口の社会増加	332人増 (H17/10～H22/9)	390人増 (H23/10～H28/9)	187人増 (H23/7～H24/6)	—	①

注) ①取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

## 3. 目標達成見通しの理由

路面電車市内線一日平均乗車人数は、目標達成に寄与する主要事業が完了していないなかで前年を上回って推移している。

乗車人員増の要因としては、実施中である「おでかけ定期券事業」や「まちなかポイントサービス」の利用が増加していることや、第1期計画で整備した路面電車環状線の乗車と組み合わせたイベントが民間主体で行われるようになってきていることなどが考えられる。

その他、新たな賑わい拠点の整備である「西町南地区第一種市街地再開発事業(ガラス美術館、図書館本館、業務施設等)」を始めとした目標達成に寄与する主要事業による乗車人員の増を想定しており、事業が計画どおり進捗していることから、平成28年度における目標達成は可能であると見込んでいる。

中心商業地区の歩行者通行量については、平成24年の最新値は24,232人と、基準値を下回る結果となった。

しかしながら、歩行者通行量は、状況把握を平均化するため年4回(3月、5月、8月、11月)調査の平均値を用いており、5月の調査においては23,078人となる一方、3月調査では33,247人となるなど、調査時期によっては目標値を上回る結果も出ており、第1期計画で整備を行った賑わい拠点である「グランドプラザ」や「総曲輪フェリオ」等が着実に新たな賑わいを創出してきていると考えられる。

このような状況の中、今後、第2期計画に位置付けた「西町南地区複合施設整備事業」や「総曲輪西地区第一種市街地再開発事業」等により新たな賑わい拠点が整備され、「グランドプラ

ザ」等との間に回遊性が生まれることにより、まちなかの賑わいが、点から線へ、さらに面的に広がると考えられる。

現在、これらの事業は、順調に推移しており、引き続き取り組むことで目標達成は可能であると見込んでいる。

中心市街地の居住人口の社会増加については、第1期計画に位置づけていた「中央通り f 地区第一種市街地再開発事業」による共同住宅が平成24年4月に完成したことやまちなか居住推進事業の効果等により、平成23年7月から平成24年6月の中心市街地の居住人口の社会増加が187人となった。

また、「西町東南地区第一種市街地再開発事業」による共同住宅が、平成24年10月に完成したことや、今後、民間の分譲マンションの建設も予定されており、目標達成は可能であると見込んでいる。

#### **4. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由**

前回フォローアップは実施していない。

#### **5. 今後の対策**

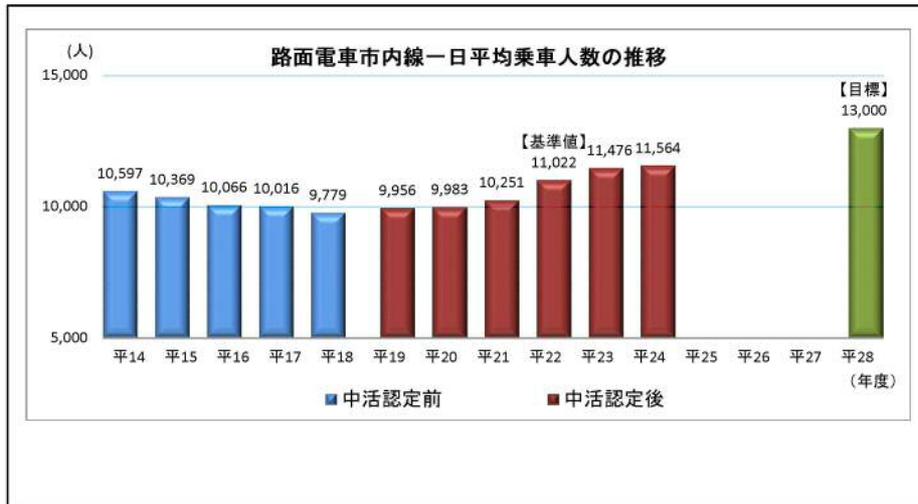
今後も基本計画に掲載された事業を着実に推進するとともに、中心市街地の活性化に有効であると判断できる事業については基本計画に掲載し、支援していく。

また、基本計画に掲載していないが、中心市街地の活性化に効果があると考えられる事業についても、市民、商業者、交通事業者、市内有力企業及び県や㈱まちづくりとやまの協力・支援を得て、積極的に実施していく。

## II. 目標毎のフォローアップ結果「公共交通や自転車・徒歩の利便性の向上」

「路面電車市内線一日平均乗車人数」※目標設定の考え方基本計画 P62～P66 参照

### 1. 調査結果の推移



年	(単位)
H22	11,022 人 (基準年値)
H23	11,476 人
H24	11,564 人
H25	
H26	
H27	
H28	13,000 人 (目標値)

※調査方法；実測値による平均人数

※調査月；通年

※調査主体；富山地方鉄道株式会社

※調査対象；路面電車市内線

### 2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

#### ①. 西町南地区第一種市街地再開発事業（西町南地区市街地再開発準備組合）

事業完了時期	【未】平成26年度
事業概要	旧大和百貨店跡地に公益施設(ガラス美術館、図書館本館、業務施設等)を複合的に整備し、市民が気軽に集い、憩える文化・情報交流拠点とする事業である。
事業効果又は進捗状況	西町南地区市街地再開発準備組合が平成24年2月に本組合に移行し、平成24年12月から既存建物の解体に着手し、平成27年3月の完成に向けて準備を進めている。

#### ②. 総曲輪西地区第一種市街地再開発事業（総曲輪西地区市街地再開発準備組合）

事業完時期	【未】平成26年度
事業概要	市街地再開発により、商業施設、映画館、ホテル及び駐車場からなる複合施設を整備する事業である。
事業効果又は進捗状況	総曲輪西地区市街地再開発準備組合が平成25年2月に本組合に移行し、平成25年9月から既存建物の解体に着手する予定であり、平成27年9月の完成に向けて準備を進めている。

③ 富山駅路面電車南北接続事業（富山市/富山地方鉄道株）

事業完了時期	【未】平成30年度
事業概要	北陸新幹線開業に併せ新幹線高架下まで路面電車の軌道を整備する事業であり、将来的には富山ライトレールとの接続によりLRTネットワークの形成を図るものである。
事業効果又は進捗状況	平成25年2月に「軌道運送高度化実施計画」の認定申請を行ったところであり、新幹線高架下までの路面電車の軌道を整備する事業については、北陸新幹線開業に併せた完成に向けて順調に事業が進捗している。

④ 市内電車西町付近新停留所設置事業（富山市/富山地方鉄道株）

事業完了時期	【未】平成24年度
事業概要	旧西武百貨店付近にて環状線新停留所を設置し、利便性の向上を図る事業である。
事業効果又は進捗状況	平成25年5月に事業完了見込である。

⑤ おでかけ定期券事業（富山市）

事業完了時期	【実施中】平成28年度
事業概要	市内在住の65歳以上の高齢者が、バス・鉄道・路面電車でおでかけ定期券を利用すると100円で中心市街地に来街することが出来る事業である。
事業効果又は進捗状況	平成24年度のおでかけ定期券利用による路面電車市内線の一日平均乗車人数は351人であり、目標達成に寄与している。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

平成24年度の路面電車市内線一日平均乗車人数は、目標達成に寄与する主要事業が完了していないなかで前年を上回って推移している。

乗車人員増の要因としては、実施中である「おでかけ定期券事業」の利用が浸透した結果、一日平均乗車人数が平成23年度の288人から351人へと21.8%増加したことや、「まちなかポイントサービス」の利用が平成23年度の896,360ポイントから1,339,620ポイントへと49.5%増加していることから、利用者へのサービス向上により乗車人員増に寄与していると考えられる。

さらに、第1期計画で整備した路面電車環状線の乗車と組み合わせたイベント（路面電車1日券と富山名物のグルメとをセットにした券を販売し、食べ歩きを楽しむイベント、路面電車の車内で音楽ライブを行うイベントやワインを楽しむイベントなど）が民間主体で行われるようになってきたことも、乗車人員の増に寄与していると考えられる。

その他、目標達成に寄与する主要事業として、新たな賑わい拠点の整備である「西町南地区第一種市街地再開発事業（ガラス美術館、図書館本館、業務施設等）」や「総曲輪西地区第一種市街地再開発事業（商業施設、映画館、ホテル及び駐車場）」、平成26年度末に予定されている北陸新幹線の開業に併せて駅南口交通広場から新幹線高架下まで路面電車を延伸する「富山駅

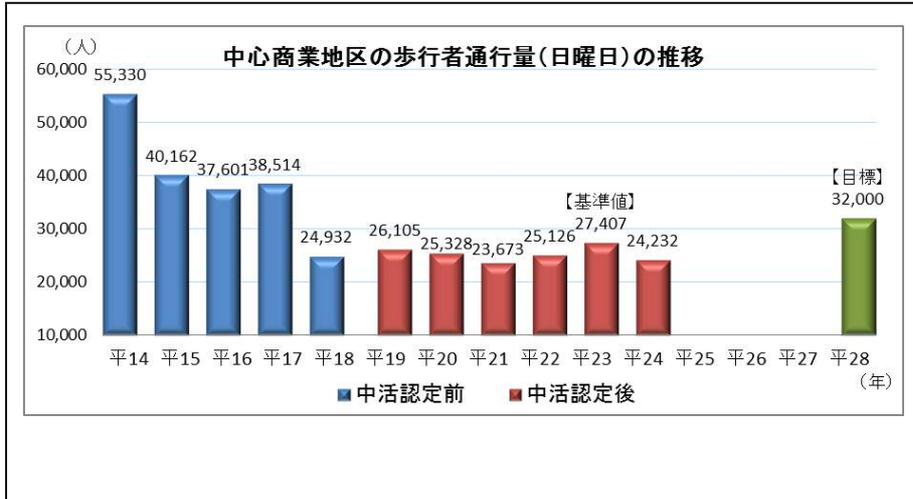
路面電車南北接続事業」、市内電車環状線の停留所の間隔が比較的大きいグランドプラザ前停留所と荒町停留所との間に新停留所を設置する事業である「市内電車西町付近新停留所設置事業」による乗車人員の増を想定しているが、現時点では事業が未完了であるため効果が現れていない。

しかし、主要事業が計画どおり進捗していることから、引き続き計画に取り組むことで、目標達成は可能であると見込んでいる。

## II. 目標毎のフォローアップ結果「富山らしさの発信と人の交流による賑わいの創出」

「中心商業地区の歩行者通行量」※目標設定の考え方基本計画 P67～P72 参照

### 1. 調査結果の推移



年	(単位)
H23	27,407人 (基準年値)
H24	24,232人
H25	
H26	
H27	
H28	32,000人 (目標値)

※調査方法；中心商業地区8地点、11時間連続調査

※調査月；3、5、8、11月の平均

※調査主体；富山市・富山商工会議所

※調査対象；歩行者・自転車

### 2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

#### ①. 西町南地区第一種市街地再開発事業（西町南地区市街地再開発準備組合）

「【再掲】P3参照

#### ②. 総曲輪西地区第一種市街地再開発事業（総曲輪西地区市街地再開発準備組合）

「【再掲】P3参照」

### 3. 目標達成の見通し及び今後の対策

中心商業地区の歩行者通行量については、平成24年の最新値は24,232人と、基準値を下回る結果となった。

しかしながら、歩行者通行量は、状況把握を平均化するため年4回(3月、5月、8月、11月)調査の平均値を用いており、5月の調査においては23,078人となる一方、3月調査では33,247人となるなど、調査時期によっては目標値を上回る結果も出ており、第1期計画で整備を行った賑わい拠点である「グランドプラザ」や「総曲輪フェリオ」等が着実に新たな賑わいを創出してきていると考えられる。

このような状況の中、今後、第2期計画に位置付けた「西町南地区第一種市街地再開発事業(ガラス美術館、図書館本館、業務施設等の整備)」や「総曲輪西地区第一種市街地再開発事業(商業施設、映画館、ホテル及び駐車場からなる複合施設)」等により新たな賑わい拠点が整備され、「グランドプラザ」等との間に回遊性が生まれることにより、まちなかの賑わいが、点から線へ、さらに面的に広がるものと考えられる。

この賑わい拠点の創出と、北陸新幹線開業による歩行者増を合わせて7,922人の歩行者増を

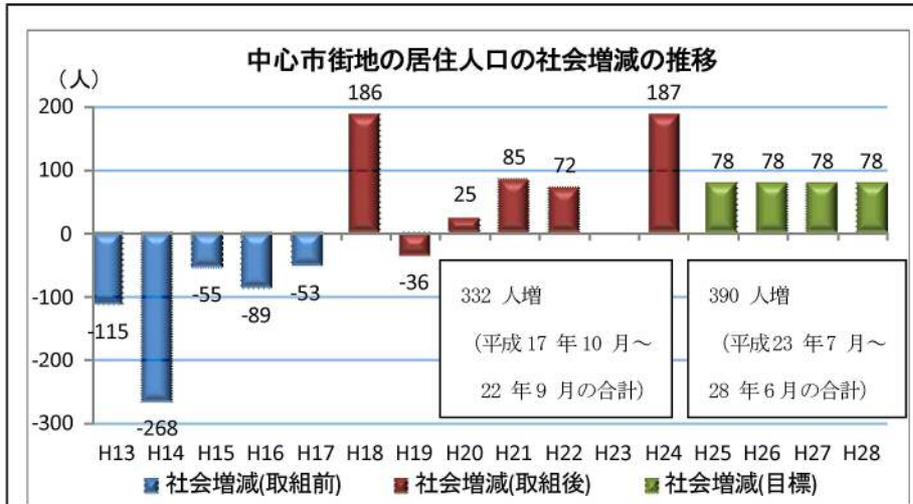
見込んでいる。

現在、これらの事業は、順調に推移しており、引き続き取り組むことで目標達成は可能であると見込んでいる。

## II. 目標毎のフォローアップ結果「質の高いライフスタイルの実現」

「中心市街地の居住人口の社会増加」※目標設定の考え方基本計画 P73～P75 参照

### 1. 調査結果の推移



年	(単位)
H17～22	332 人増 (基準年値)
H23	
H24	187 人増
H25	
H26	
H27	
H28	390 人増 (目標値)

※調査方法；住民基本台帳データに基づく

※調査月；毎年 7 月～翌年 6 月

※調査主体；富山市

※調査対象；中心市街地の居住者

### 2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

#### ①. 西町東南地区第一種市街地再開発事業（西町東南地区市街地再開発組合）

事業完了時期	【済】平成24年度
事業概要	116 戸の共同住宅を計画する、まちなかの居住人口増加を図る事業である。
事業効果又は進捗状況	平成24年10月に共同住宅が完成し、事業が完了した。 なお、116 戸は共同住宅完成前に完売しているため、中心市街地の一世帯あたりの人員 2.17 人より積算し、251 人の中心市街地の居住人口の社会増加に寄与したと見込んでいる。

#### ②. まちなか居住推進事業（富山市）

事業完了時期	【実施中】平成28年度
事業概要	まちなかにおける住宅取得に対する支援や家賃に対する助成などを行い、まちなかの居住人口増加を図る事業である。
事業効果又は進捗状況	平成24年度は、住宅取得補助 120 件、家賃助成 153 件の利用があったため、中心市街地の一世帯あたりの人員 2.17 人より積算し 592 人の中心市街地の居住人口の社会増加に寄与したと見込んでいる。

### 3. 目標達成の見通し及び今後の対策

第1期計画に位置づけていた「中央通り f 地区第一種市街地再開発事業」による共同住宅が平成24年4月に完成したことやまちなか居住推進事業の効果等により、平成23年7月から平成24

年6月の社会増が187人となった。

また、「西町東南地区第一種市街地再開発事業」による共同住宅が、平成24年10月に完成したことや、今後、民間の分譲マンションの建設も予定されており、目標達成は可能であると見込んでいる。